

《症例報告》

$^{99m}\text{Tc}$ -HSAD を用いた出血シンチグラフィが出血部位の同定に  
有用であった回腸 capillary hemangioma の 1 例

浅野 雄二\*      石井 勝己\*      鷲内 隆雄\*      青木 由紀\*  
矢内原 久\*      早川 和重\*

要旨 症例は、9歳の女児で、入院時に高度の貧血を認めた。消化管出血を疑い、各検査が施行されたが、明らかな出血部位を同定できなかった。しかし、下血後、すぐに施行した出血シンチグラフィで、回腸終末部に血管外漏出を認めた。そのあと腹部血管造影を施行したが、明らかな血管外漏出は認められなかった。患者の状態が悪化したため、出血シンチグラフィの陽性所見をもとに、開腹手術を行った。手術で、出血シンチグラフィの所見と一致した部位に、capillary hemangiomaからの静脈性出血を確認した。 $^{99m}\text{Tc}$ -human serum albumin-diethylenetriaminepenta-acetic acid ( $^{99m}\text{Tc}$ -HSAD) を用いた出血シンチグラフィが、出血部位の同定に有用であった稀な回腸 capillary hemangioma の 1 例について報告した。

(核医学 38: 219–222, 2001)